

平成25年12月26日  
国立大学法人筑波大学

### 管理下でない核燃料物質（試薬）の発見について

平成25年12月20日（金）、筑波大学において、管理下でない核燃料物質（硝酸ウラニル、硝酸トリウム）が発見されたため、12月24日（火）原子力規制委員会に報告しました。

筑波大学は、「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」に基づく国際規制物資の使用・保管が許可されているため、当該物質については、既に許可された保管施設（放射線が遮蔽可能な鍵のかかる保管庫）に移動しています。

また、環境測定の結果、容器が置いてあった場所及び周囲に汚染はなく、人体及び環境への影響はないと判断しました。

#### 1. 発見場所

茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学 自然系学系A棟

#### 2. 発見された物質

硝酸ウラニル（6水塩）：25g ガラス瓶入り粉末 20g、ウラン量  $20 \times 238/502 = 9\text{g}$

硝酸トリウム（4水塩）：25g ガラス瓶入り粉末 20g、トリウム量  $20 \times 232/552 = 8\text{g}$

#### 3. 放射線による影響

硝酸ウラニル 試薬瓶表面：0.81  $\mu\text{Sv/h}$ 、試薬瓶から1m：0.08  $\mu\text{Sv/h}$

硝酸トリウム 試薬瓶表面：6.8  $\mu\text{Sv/h}$ 、試薬瓶から1m：0.1  $\mu\text{Sv/h}$

バックグラウンド 0.08  $\mu\text{Sv/h}$

双方とも試薬瓶から1mでほぼバックグラウンドレベルであり、また、試薬瓶表面及び試薬瓶が入っていたボックス内をスミア法により調べた結果、放射性物質による汚染がないことが確認されたため、人への放射線障害のおそれ及び外部への放射性物質の影響はないと判断しました。

#### 4. 発見の経緯

自然系学系A棟実験室内の試薬ボックスを整理していたところ、「硝酸ウラニル」及び「硝酸トリウム」を発見しました。

#### 5. 今後の対応について

調査委員会をおき、徹底した調査・検討を行ったうえで、今後の再発防止策を構築する予定です。

（問い合わせ先）研究推進部研究企画課 須藤 英世

TEL：029-853-2922

E-mail：sudo.hideyo.fm@un.tsukuba.ac.jp